

広報



特集 「空」から「住」へ

山の恵みは若返りパワー！

本郷西地区の主婦の皆さんでつくる「まんまの会」(代表:渡辺よし子さん・小新)では、4~6月、9~11月の期間限定で、旬の山菜などを盛り込んだ「若返りランチ」を小倉交流館で提供しています。4月23日のメニューは、きなこ餅や雑煮など、地区に伝わる伝統の餅料理づくし。町外からも多くのお客さんが訪れ、町産の山の幸のおいしさに舌鼓を打ちました。



平成29年

5

No. 675

「空」から「住」へ

～空き家利用支援と定住促進～

住居は、生活を営むうえで欠かせない要素のひとつ。しかし、人生の節目や突発的な事情により、住人のいない空き家となることもあります。近年その空き家が増加しており、町にとっても大きな課題となっています。一方で、さまざまな目的で本町への移住を希望する方も多くなっています。

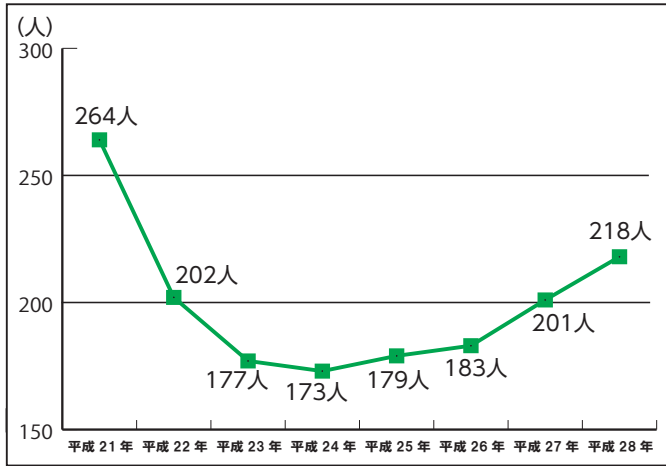
「空き家」から「住居」へ。定住促進に向けた空き家の利活用の取り組みについて、本町へ移住した方の声とともにお伝えします。



小見地内の吉田勝信さん・鮎子さん夫妻の住まい。
夕日の差す縁側は、ひとときの憩いの場にぴったりです。

移住者は増えている

地方における人口減少は、将来の地域社会の存続をも危うくする深刻な問題として、全国の多くの市町村を悩ませています。その大きな要因として、少子化とともに問題視されているのが、地方から首都圏への人口流出。転入する人数から転出する



本町への年間転入者数 (『山形県社会的移動人口調査』より)

空き家バンク利用者数 (各年度)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
利用希望者数	1人	3人	7人	5人	6人	7人	15人	16人
入居者数	0人	0人	0人	1人	1人	4人	6人	2人

人数を差し引いた人口の社会増減では、県内でもほとんどの市町村が「マイナス」となっています。

平成27年、転入数が転出数を上回る「社会増」を果たしたのは、県内ではわずか2市2町。その「2町」のうち1つが、私たちの住む大江町です。

さらに、県外市町村との転出入に

限ってみると、県外からの転入が転出を上回ったのは本町だけでした。

平成28年には社会増減はマイナスに転じましたが、増減率では県内市町村の中で依然として上位の水準を維持しています(『山形県社会的移動人口調査』より)。

平成24年度から28年度までの5年間の人口推移をみると、本町への転入者の数はゆるやかながらも増加傾向にあります。転入にはさまざまな理由があると考えられますが、確かに今、遠く離れた地域から本町へ移住する人は多くなっています。

移住者視点で見えるもの

本町への移住を希望する理由としては、豊かな自然の中で生活してみたいという声が多いようです。農業経営へのチャレンジ、恵まれた環境の中での子育て、地域の人々と交流しながらの地域おこし活動、定年後ののんびりとしたセカンドライフ……住み続けている側からでは、近すぎてかえって見えにくい町の価値が、移住者の視点に立つと発見できるようにも思われます。

地理的条件、交通の面から見直してみると、本町が位置しているのは、

山形県のほぼど真ん中。各地へ伸びる国道などの幹線道路が町内を通っているほか、左沢駅と山形駅を直接結ぶJR左沢線があり、県内市部へのアクセスも便利です。首都圏から新幹線で来ようとすれば、山形新幹線からJR左沢線への乗り継ぎひとつで本町へたどり着くことができます。

豊かな自然は町のかけがえのない宝であり、都市部では得がたい貴重な環境といえます。そうした土地を移住先として求めている人にとって、本町は都会から意外とすぐそばにある新天地といえるかもしれません。

さまざまな目的からこの町に住もうとする人々にとって、住居は何より先に確保しなければならぬ生活の拠点です。その住まいを手に入れるうえで有力な選択肢の1つとなるのが、住む人のいない空き家の数々です。

まだまだ住める家がある

費用の安さ、居住スペースの広さなど、空き家を利用することには大きなメリットがいくつもあります。住居として利用することが可能な空き家は、町内にどれくらいあるのでしょうか。

平成24年、町では空き家の件数や状態などを把握するため、各区長さんなどの協力を得て実態調査をおこないました。その結果、明らかに変わった空き家の数は、小屋など居宅以外の建物も含めて240件。平成19年に実施した調査結果に比べて約1・5倍に増加していることがわかりました。

このうち、住居としては使用していないものの、農具や家財の保管などのために定期的に管理がなされているものは約100件。建物の状態はそれぞれ異なっており、全てが今すぐに住めるような状況にあるとは限りません。

この年の調査以降、町が把握する空き家の数は、取り壊しや売却などによって徐々に減少しています。一方で、その後新たに空き家となった建物が多くあることも考えられます。そこで今年度、最新の状況を調べるために、改めて空き家の実態調査を実施することを予定しています。

空き家バンクのメニュー

空き家などの貸し出し、または売却を希望される方が物件を登録し、空き家などを利用したいと考えてい

千葉県出身の魚路さんは、村山市への移住を経て、今年4月から夫婦で小見地内の空き家に居住することになりました。「妻が農業を始めるといってもあって、畑のある新しい住まいを探していたところ、大江町の空き家バンクで良い条件の空き家を見つけたんです」

有機野菜や無添加の調味料などを移動販売する移動マルシェを経営している魚路さん。県内や仙台など、さまざまな場所で販売しています。

「子どものころからアトピーやアレルギーに悩まされていたので、安全に食べられる食べ物に興味を持つようになり、有機野菜などの販売を始めました。町内の農家からも仕入れをしています」

移住のための手続きを済ませたばかりで、まだ片付け作業に追われている魚路さんですが、新しい住まいと地域の雰囲気徐々に慣れてきたそうです。

「古い家の落ち着いた雰囲気が好きですね。地域の皆さんも明るく親切な方ばかりです。町内でも販売して、たくさんの町民の方と親しくなればと思います」

Interview 1



魚路 真希さん
(小見)

る方にその情報を紹介するのが、平成21年度から始まった「空き家・空き地情報提供制度」、いわゆる「空き家バンク」です。所有者の方が登録申請をすると、町が建物の状態を調査したうえで空き家バンクに物件を登録。建物の面積や築年数、状態などの基本情報のほか、外観写真や

空き家を拠点に 夢を広げる



新しい住まいの前で移動マルシェの準備をする魚路さん

Interview 2



竹平 勤さん
(諏訪原)

新しいチャレンジの 舞台として

平成26年8月に新規就農研修生として本町に移住した竹平さん。空き家バンクで諏訪原地内の住宅を借り、家族3人で暮らしています。

「5匹のネコを飼っているのですが、借りられる家はなかなかないと思っていたのですが、所有者の方が快く了承してくださったので、大変ありがたかったです」

以前は東京で会計事務所に勤務しており、農業は未経験だった竹平さんですが、果樹や水稻の栽培を学び、昨年から独立して農業経営に携わっています。

「農業のことはまったくわかりませんでしたが、未知の世界だからこそ楽しみにつながるという面もありますね」

独立を果たし、今度は新たな就農者を募る側になった竹平さん。自家の経営の安定だけでなく、町の農家として受け入れ体制の強化も必要だと考えています。

「この町でもっと農業者が増えてほしいと思っています。空き家バンクの情報がより充実すれば、移住者も安心して来てくれるようになるのではないのでしょうか」



▲竹平さんが現在暮らしている、諏訪原地内の住宅

平面図などの画像を町のホームページに掲載して公開します。使用する目的のない家屋を所有している方にとっては、建物を有効に活用する手段の1つとなります。また、情報はインターネットを通じていつでも閲覧可能なため、移住先を検討している人にとってもスムーズに情報収集ができます。もちろん町内にお住まいの方でも、目的に合った建物を見つけて利用することが可能です。さらに、空き家バンクを利

用して町内に定住する方に、1世帯につき10万円の奨励金を交付する制度もあります。

空き家バンクが始まってから、これまで延べ16人の方が空き家バンクを利用して賃貸、あるいは売買契約を結び、本町へ移住しました。現在のところ、空き家バンクに登録されている空き家の件数は15件となっています（4月1日現在）。

リフォームもサポート

立地、間取り、外観など、希望通りの空き家を見つけたとしても、建物がすぐに住めるような状態にあるとは限りません。木造家屋の場合、長い間人が住んでいないと湿気によって徐々に木材が傷んでいくほか、水回りも長期間放置されていると錆が発生してしまいます。安心して生活を営むために、また利便性や機能性の確保のために、改修が必要になる場合もあります。

そこで、登録した空き家の所有者や利用者が、建物の改修工事をおこなう場合に、町がその費用の一部を補助する制度があります。対象となるのは、キッチンやトイレ、浴室などの水回り、そして内装、屋根、外

地域の絆の中で 希望を育む



吉田 鮎子さん 吉田 勝信さん
(小見)

ともに首都圏出身で、地域おこし協力隊として川西町に居住していた吉田さん夫妻。一昨年8月に本町へ移住し、昨年5月には山里交流館「やまさあーべ」で結婚式を挙げました。

「身近に山や自然があるところに住みたくて、県内で住む場所を探していました」と話す鮎子さん。勝信さんは「JR左沢線をはじめ、公共交通が充実していて、どこへ行くにも便利なところだと感じました」と、町の印象を語ります。

「始めは小さい家がいいと思っていたんですが、窓が大きいのが気に入ってこの家に決めました。大家さんも愛着がある家なので、大切にしていきたいですね」

現在、勝信さんはデザイナーとして各種パンフレットなどを制作し、鮎子さんは天童市内の家具製造メーカーに勤務しています。

「地域の皆さんに新しい住民として暖かく迎え入れていただき、地区の集会などにも参加しています。今後はもっと町のことをたくさん知って、暮らしの領域を広げていきたいです」



▲勝信さんの仕事部屋。大きな窓が特徴的です

装などの改修工事です。若者世帯、子育て世帯などの条件にあてはまる利用者が空き家を購入した場合、リフォームにかかる対象経費の3分の2、最大150万円が補助されます。申請後の工事のみが対象となるので、所有者と利用者が相談したうえで申請してください。

適正管理にも空き家バンク

空き家は全国的に増加傾向にあり、その有効活用の方法が模索されています。また、住める状態になく荒廃

した空き家についての対策も課題となっています。

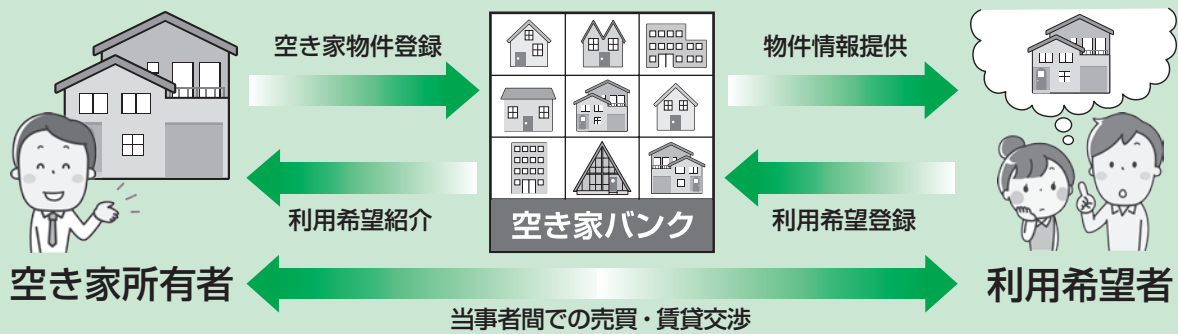
長年人が立ち入らず、放置された家は老朽化が進んでいきます。強風や積雪などによって破損もしくは倒壊したり、敷地内の生い茂った樹木などが倒れたり、動物などが住みついて繁殖したりと、近隣住民の生命や身体、財産への被害がもたらされる可能性もあります。

平成27年に施行された「空家等対策の推進に関する特別措置法」により、空き家などが著しく危険な状態にあると判断された場合、その建物は「特定空家等」に指定され、固定資産税の住宅用地特例が適用されなくなるなど、所有者にとっても大きなデメリットとなります。

所有する建物が荒廃するのを防ぐためには、使用されていない空き家であっても、窓を開けて換気をしたり、冬場には雪下ろしをしたりするなど、定期的な手入れをおこなうことが必要です。しかし、空き家を長期的に維持管理していくためには、それなりのコストがかかることも確かです。

空き家バンクへ物件を登録していると、家財道具の処分や清掃にかかる費用について、最大で10万円の補

空き家・空き地情報提供制度（空き家バンク）の仕組み



空き家に関する町の補助制度

《空き家の家財道具を処分・清掃したい所有者の方》

- ◆対象者／大江町空き家・空き地情報提供システム（以下「空き家バンク」）に空き家を登録している所有者
- ◆対象経費／家財道具などの処分・搬出、空き家の清掃に要する経費
- ◆補助率／賃貸希望物件：対象経費全額（上限10万円）
 売買希望物件：対象経費の2分の1（上限5万円）

《空き家を改修したい所有者・利用者の方》

- ◆対象者／空き家バンクを利用して空き家を売買または賃貸借し、改修工事をおこなう所有者および利用者
- ◆対象工事／キッチン、トイレ、浴室、洗面所などの水回り、内装、屋根、外装などの改修工事
- ◆補助率

区分	空き家の購入の場合	空き家の賃貸借の場合
若者世帯、子育て世帯、新婚世帯、町外からの移住世帯、事業を目的とする者のうちいずれか1つに該当	対象経費の3分の2 （上限150万円）	対象経費の2分の1 （上限100万円）
上記以外の利用者	対象経費の4分の1 （上限75万円）	対象経費の6分の1 （上限50万円）

《空き家に住む利用者の方》

- ◆対象者／空き家バンクを利用して空き家を購入または賃借している方
- ◆交付額／10万円（1回限り）

利活用の可能性を広げて

助を受けることができます。また、売却もしくは賃貸したときは改修工事の費用が補助されます。空き家の維持管理、有効活用を考えている所有者の方にとっても、空き家バンクは大きなメリットがあるといえます。

空き家には、新たな住人の住まいとしてだけではなく、多くの活用方法が考えられます。旧きらやか銀行大江支店の利活用に向け、左沢地内の空き店舗を利用してまちづくり交流会や社会実験をおこなっている「縁屋」は、その一例といえるでしょう。

町内の空き家を利用して移住した皆さんも、多くが積極的に地域行事やイベントに参加しており、地元の産品や資源を生かした地域活性化につながる活動に取り組んでいる方もいます。

さまざまな事情で人が住まなくなると、ぽっかりと空いてしまった建物の数々。新たな住人によってその「空き」が満たされ「住居」となることで、そこには今までになかったアイデアやエネルギーが湧き起こってくるのかもしれない。



一斉放水訓練



演習開始宣言



団旗入場

平成29年度 大江町消防団 春季消防演習

平成29年度の大江町消防団春季消防演習が、4月23日に実施されました。会場となった左沢小学校グラウンドでは消防団員による消防操法や幼年消防クラブによる訓練がおこなわれ、左沢内町・横町通りでは、一斉放水訓練と威風堂々の分列行進が披露されました。演習終了後には、ふれあい会館において消防活動に功績があった方々が表彰されました。



消防操法・小型動力ポンプ



消防操法・自動車ポンプ



分列行進・消防団員



幼年消防クラブ



分列行進・自動車部隊



防災を担う 熱いまなざし

消防庁長官表彰



平成28年度 消防関係表彰

◎永年勤続退団者／庄司達夫、早坂和彦、渡辺慎、佐藤英樹、伊藤茂、清野厚

山形県知事表彰

◎特別功労章／鈴木良勝、伊藤学
◎金条章／自動車分団第2部
◎功労章／関根修、柏倉栄一、柏倉生一

◎功績章／鈴木孝仁、佐藤和弘、伊藤幸紀、村上勇

◎精錬章／佐藤勇一、菊地誠、兼子貴行、松田誠、村山茂暢

日本消防協会会長表彰

◎勤続章／鈴木直喜、渡邊厚、大場光男、大場秀紀
◎精績章／伊藤武敏

山形県消防協会会長表彰

◎優良章／松田章、吉野克一、公平勝、堀浩哉、白田和彦、柏倉修

山形県消防協会西村山支部長表彰

◎永年勤続30年／渡邊厚
◎永年勤続25年／安食幸治、林善昭
◎永年勤続20年／伊藤学、庄司隆弘、佐藤和弘、松田宗一、大波幸生、高橋吉彦
◎永年勤続15年／渡邊寛寿、工藤和明、佐藤勇一、菊地茂、高野文弥、菊地洋幸、海野達也、後藤豊、柏倉清徳、箱崎正篤、伊藤真人、阿部隆、最上拓朗、大沼智裕、宮下透、東海林俊広、庄司光幸

竿頭綬／第4分団第1部

◎優良団員／佐藤勇輔、石川聖、鈴木徹、佐藤洋之、阿部新伍、阿部恵一郎、高橋実、金山暁、坂本晋也、横山裕亮、清野利史、伊藤陽介、石坂康平、村上裕也、菊地良平、鈴木茂昭

大江町長表彰

◎優良団員／清野光、柳沢大介、佐藤修平、渡邊真洋、松田洋平、東海林裕介、富樫俊介

大江町長感謝状

◎一般協力者／阿部和子
◎内助の功労者／庄司桂子、松田恵美子

大江町消防団团长表彰

◎優良機関／第2分団第4部、第4分団第3部（敬称略）



4/5 仲間と一緒に新しい生活

新しい春を迎え、平成29年度がスタートした4月、町内では保育園や幼稚園、小中学校の入園式や入学式がおこなわれ、多く子どもたちが新生活の第一歩を踏み出しました。

町立保育園では、4月5日に入園式が開かれました。来年度からは統合保育園の運営が開始されるため、さくら・わかば両保育園での入園式は今年度が最後となります。この日、2つの保育園では合わせて34人の子どもたちが入園式を迎え、保護者の方や仲間の園児たちと一緒に歌を歌うなど、保育園生活の始まりを楽しんでいました。



4/10~14 ルールを学んで安全に登下校

春は雪解けとともに交通量が増加し、交通事故が発生しやすい季節です。こうした中、「春の交通安全県民運動」が4月6日から15日まで実施されたことに伴い、町内でも交通安全を呼びかけるさまざまな活動がおこなわれました。

交通安全母の会（会長：藤野広美さん・6区）では、左沢小学校と本郷東小学校の児童登下校時の街頭指導を、4月10日から14日まで実施。通学路内の交差点など注意すべき場所に立って、入学したばかりの1年生を中心に、交通ルールを守って安全に帰宅できるよう見守りと指導をおこないました。



4/11 伝える気持ちをはっきりと

手話で日常会話をする技術などを学ぶ手話奉仕員養成講座の開講式が、4月11日に役場東庁舎で開かれました。この講座は昨年度から始まったもので、今年度は33回の講座が予定されています。

第1回目となるこの日は、スポーツや生活に関わる事柄を、自分なりの身振りで表現することに挑戦。受講者は、相手に的確に伝えるためにさまざまなジェスチャーを考えていました。講師の神尾裕彦さんは「手の動きだけでなく、口の動きや表情も交えてはっきりと伝えようとするのが大事です」と解説していました。



4/15 書の道の第一歩は基本から

平成29年度少年少女書道教室の開講式が、4月15日に中央公民館で開催されました。今年度は小学校3年生から6年生まで、合わせて79人の児童が受講。清野昭一郎さん（十八才）をはじめ20人の指導員・推進員の協力のもと、これから1年間書道を学んでいくことになります。

書道教室では、全ての児童が町民ホールへ一堂に会して書道の練習をおこないます。初めて受講する3年生は、道具の置き方や筆の持ち方などの基本を、指導員の先生から一つひとつ丁寧に教わっていました。



4/16 みんなの手できれいな町に

町内の多くの地区で、4月16日に一斉ごみ拾いがおこなわれました。この取り組みは環境衛生組合連合会(会長：松田栄一さん・9区)と町の主催により、ごみのない町づくりとごみを捨てない意識の向上のため実施されているものです。

この日は朝早くから、地区民の皆さんがビニール袋を持って地区内を巡回し、道端に落ちているごみを拾いました。ある地区では「毎年たくさん落ちているのに、今年のごみが少ないですね」と話す方も。ごみ拾い終了後には、参加した皆さんに花の種がプレゼントされました。



4/17 温泉と一緒に夜桜も満喫

4月中旬から下旬にかけて、町内各所で桜の花が見頃を迎えました。テルメ柏陵健康温泉館では、4月17日から入口前の桜の夜間ライトアップを実施。週末には桜の花も満開となり、温泉利用者の皆さんも「きれいだね」と話しながら、照明に照らされて浮かびあがる見事な夜桜に、足を止めて見入っていました。

昨年春から再開された、テルメ柏陵健康温泉館の桜のライトアップ。見頃を過ぎた後も照明はしばらくの間点灯しており、春の風に花びらが舞い散る桜吹雪もまた見ものとなっていました。



4/29 豊作祈り渾身の舞いを奉納

秋の豊作を祈願する伝統の田植踊りが、4月29日に楯山地内の妙法院境内で披露されました。この行事は、田植えの動作などから転じた踊りを不動尊に奉納するもので、江戸時代中期ごろから同地区に伝わるとされています。

この日は楯山田植踊保存会(会長：鈴木孝仁さん・楯山)の皆さんが、伝統の衣装を身につけ、日頃練習を重ねてきた踊りと太鼓を披露。会場には地区民の皆さんをはじめ、他の地区からも大勢の人々が訪れ、太鼓のリズムに合わせた軽やかな舞いに、大きな拍手が湧き起こっていました。



4/27～29 県内強豪と熱いレースを展開!

春の県内各所を力走する第62回山形県縦断駅伝競走大会が、4月27日から29日までの3日間にわたって開催されました。今大会には寒河江・西村山チームのメンバーとして、清野大地さん(堂屋敷)、菊地春紀さん(深沢出身)、佐藤和也さん(蛍水)、菊地将史さん(深沢)、大沼翼さん(美郷)、大泉真尋さん(小漆川)がエントリー。大沼さんが第5区と第15区で区間賞を獲得するなど、チームの健闘に大きく貢献しました。

左沢橋前的大江中継所では、沿道に多くの人が詰めかけ、ランナーに大きな声援を送りました。

柳川温泉に向かった。2つの新しい橋を過ぎて右に曲がり、次に左に曲がると目の高さに近いところに、月布川がよく見える。車を止めて「川の色」を見た。雪解けが、上流では進んでいないのか、茶色には見えない。お点前のお濃茶のような薄緑色だ。日差しのせいなのか、新芽の緑が溶けた色なのか、それとも目の錯覚か……、不思議な思いにかられた「川の色」であった。

色には匂いも香りもない。なにに身の回りにはさまざまな「色付け」が施され、無色透明にはほど遠い。色無しの衣食住はいかにも「ダサイ」ということであるろうか。真っ白な大根のお漬物と、黄色いたくあん漬けのどちらがおいしそうであるか。赤い屋根と黒い屋根、白い車と黄色い車、茶色のザーサイと赤い福神漬け……、黒い福神漬けが、カレーライスに添えられたら不気味で食は進まない、に違いない。色で食べているわけではない、と言いたいところだけれど、「目は口ほどにものを言う」ことでもある。

「見ることは信じていること」だという。だったら「聞くこと」は何なんだ。ちゃんと聞きなさいと言ったことと、ちゃんと見なさいと言ったことと、どちらの表現が日常生活で多いであろうか。「耳2つ・目2つ・口1つ」で、音と形と色の組み合わせコミュニケーションの複雑怪奇な現代社会、信じていいのは……？ 間違いないな！、先輩の言っていたあの言葉、「世の中を見るのに色めがねをかけてはいけない」。

日差しが強くなる季節、紫外線も気になる。「サングラス」着用のおすすめの季節ではある。

大江町長 渡邊 兵吾

地域おこし協力隊通信

No.32



村中 亮竜さん

☆年齢：26歳
☆出身地：大阪府大阪市

はじめまして！4月1日より大江町地域おこし協力隊に着任した村中亮竜です。貫見の空き家をお借りして生活しながら、柳川の「やまさあべ」を主な拠点に自然を案内するネイチャーガイドとして活動しています。もし私を見かけたら「亮ちゃん」と気軽に声をかけてもらえると嬉しいです。

私は大江の自然環境や、自然の恵みを上手に利用して暮らしている「地域の方々の当たり前の暮らし」に魅力を感じて大江町に来ました。大阪とは文化や環境が全く違うので一から勉強して、早くこの町の豊かな自然や山のくらし、歴史など、大江町ならではの案内ができるようになります。地域の皆さん、ぜひ私の先生になって教えてください。よろしくお願ひします！



▲みんなで「やまさあべ」を盛り上げます！

● 短歌 ●

寒河江川の昔遊び場いま桜幾年過ぎて花の名所に

春雪の柏陵で行われし生きがい教室は糸巻き競走なり

この並木伯母も通ひし女学校我も勤めてこの春去りぬ

山菜蕨さんしやわのまた花咲きし我も青春はるふたひ二度あれば嬉しきものを

春来たり桜の花も満開に人の心も穏やかに

無農薬ですと甘夏届き来てなれど吾よりなみだぐなす

天地がえ霜にさらされ春を待つ土は黙って恵施す

春めきて屋根の雪どけはじまりぬひねもすぼたりぼたり音する

● 俳句 ●

満開の庭の紅梅仏前に

古民家に似合の人と雛飾り

目をこらし逆白波の雪解川

山里に仲春の雲流れけり

孫去りて静かに座るお雛様

青空の水面に椿落ち波紋

夜を明かし雪解風なり普しや

桜餅ふたりでひとつ姉妹

十五年の鳥の運びしこぶし咲く

山桜散れば存在なかりけり

りんご園嫌はれてゐる踊子草

菅井 妙子

松田 馥

山家 重之

佐竹 磨砂湖

長岡かづ子

菊地つねよ

佐竹 興鼓

斎藤 徳治

菅井 妙子

鴨田富士夫

阿部 一風

松田 馥

山家 重之

今井 茂樹

安藤 桂花

清野今日子

熊谷 勉

舟山 三男

伊藤 啓泉

吟遊浪漫
ぎんゆうろまん

※このコーナーに掲載ご希望の方は、毎月20日(必着)まで役場総務課に作品をお寄せください。



Youthful
★ ★ トーク ★ ★

朝日町内の郵便局に勤務している川村さん。はがきや封書の各家庭への配達はもちろん、小包の集配や仕分け作業など、その業務は広範囲にわたります。

「風の強い日は郵便物が飛ばされそうになるので、特に大変ですね。でも、お届け先の家の方から『いつもご苦労さま』と声をかけていただくと、とても力になります」

中学、高校とバレー部に所属していた川村さんは、とにかく体を動かすのが好きだといいます。地区のソフトボールチームに所属して大会に参加したり、町縦断駅伝に出場したりと、今もさまざまなスポーツに挑戦しています。次にチャレンジしてみたいのは、スノーボードだそうです。

郵便業務も3年目を迎え、徐々に仕事にも慣れてきたという川村さん。

「多くの人と接する仕事なので、心を込めて荷物をお届けしたいですね」

雨の日も風の日も、川村さんはたくさんの郵便物と一緒に心も届けています。

川村 巧さん (22歳・藤田)

雨の日も風の日も 心を込めてお届け

シリーズ企画

月刊 仲間とエンジョイ!

No.5

町内でスポーツや文化活動などを楽しんでいる皆さんをご紹介します。

大江町猟友会

会長：安孫子行雄さん (13区)

農作物を食い荒らしたり、住宅に侵入したりして生活に害をもたらす野生動物。大江町猟友会は町の依頼を受けて、こうした有害鳥獣を駆除する活動をおこなっています。

現在、会員は24名。町内に出没したクマやイノシシなどの獣や、ウソ、カラスなどの野鳥を駆除します。また、会員の射撃技術の向上のために、年に1度射撃大会を開催しています。

安孫子会長は「新規就農者の方も活動に参加してくれて、大変助かっています。今では会員も高齢の方が多くなり、有害鳥獣の出没にすぐ対応するのが難しくなってきているので、若い人の力がほしいですね」と話していました。



▲猟のために集まった大江町猟友会の皆さん



▲有害鳥獣の駆除をおこなう鳥獣被害対策実施隊の委嘱状が、4月11日に交付されました

お知らせ

Information

がん患者医療用ウイッグの 購入費用を助成します

がん患者の皆さんの就労や社会参加を応援し、療養生活の質がより良いものになるように、ウイッグ(かつら)を購入した際、その費用の一部を助成します。

◆助成対象者／町内に住所を有する方で、がんの治療に伴う脱毛のため就労や社会参加などに支障がありウイッグが必要な方

※過去の町のがん患者医療用ウイッグの購入助成や、他の法令などによる助成などを受けている方は対象外
 ◆助成対象経費／平成28年4月1日から平成30年3月31日まで医療用ウイッグを購入した経費

◆助成額／①2万円またはウイッグ購入経費の2分の1の額のいずれか低い額、②助成対象者1人につき1回限り

◆申請窓口／健康福祉課保健衛生係

◆申請期限／平成30年3月末

◆申請に必要なもの／①脱毛の副作用があるがん治療を受けていること

を証明する書類、②医療用ウイッグを購入したことを証明する書類、③申請者名義の振込先の通帳の写し、④朱肉用印鑑、⑤本人を確認する書類(運転免許証、健康保険証など)、⑥町が必要と認める書類
 ※代理申請や郵便による申請を希望する場合は、ご連絡ください。
 健康福祉課保健衛生係 ☎(62) 2114

骨髄移植ドナー助成事業を 実施しています

町では、骨髄または末梢血幹細胞を提供する人の負担軽減を図り、骨髄などの移植を推進するため、助成金を交付しています。

◆対象／次の全てに該当し、平成29年度に骨髄などの提供が完了した方
 ①骨髄などの提供が完了した日に町内に住所を有する方、②他の法令などにより助成費に相当する補助金の交付を受けていない方、③骨髄などの提供をおこなうための休暇制度が導入された事業所に勤務していない方、④町民税の滞納者でない方

◆助成金／骨髄などの提供のために次の通院・入院をした日数(1回の提供につき7日までが上限)の合計に2万円を乗じた額とし、1回の骨

ふるさと納税お礼の品 提供事業者を募集します



町では、ふるさと納税で寄付していただいた方に町にゆかりのあるお礼の品をお返しし、県内外へ町の魅力を発信しています。そこで、町ならではのお礼の品を提供していただける事業者を広く募集します。

◆応募の要件

- ①町内で栽培、製造、加工、販売、サービスなどをおこなっていること
- ②法令などに違反していないこと
またはその恐れがないこと
- ③町税の滞納がないこと
- ④代表者が、暴力団の構成員などでないこと
- ⑤個人情報の取り扱いを厳重におこなえること



◆募集するお礼の品

- ①町の特産品や魅力を伝えられるまたはPRにつながるもので、町内で栽培、製造、加工、販売、サービスなどがなされているもの
 - ②品質や数量の面で安定供給が見込め、速やかにお礼の品の発送ができること
- ※お礼の品の価格は、寄付金額(1万・3万・5万・10万円)のおよそ3割から5割までとしています。
 ※詳しくは町のホームページをご覧ください。
 政策推進課政策推進係 ☎62-2118

「日本一くんカフェ」 (認知症カフェ)を開催しています

町では毎月1回「日本一くんカフェ」(大江町認知症カフェ)を開催しています。認知症のご家族を介護されている方、認知症に関心のある方、どなたでもお気軽にお茶飲みにいらしてください。

通帳の写し、④朱肉用印鑑
 健康福祉課保健衛生係 ☎(62) 2114

「未来へつなぐ元気活動支援事業」 活動団体を募集します!

◆補助対象 / 町内を主たる活動の拠点とする3人以上の団体がおこなう事業

【総合戦略推進型】

町の総合戦略に位置づけられた事業のうち、町が設定した次のテーマに取り組む事業

- ①山里交流館やまさあーべを活用した交流事業、②婚活応援事業、③移住交流促進事業、④地域ぐるみの子育て応援事業、⑤ふるさと納税の返礼品向け商品開発事業

【創意工夫型】

団体がテーマを設定し、地域課題の解決や地域おこし活動などに取り組む事業

◆補助率など

【総合戦略推進型】

上限額100万円。補助率：50万円までは対象経費の10割。50万円超の部分は1年目9割、2年目8割、3年目7割(若者・女性グループは1年目10割、2年目9割、3年目8割)

【創意工夫型】

上限額100万円。補助率：30万円までは対象経費の10割。30万円超の部分は1年目8割、2年目7割、3年目6割(若者・女性グループは1年目9割、2年目8割、3年目7割)

※「女性・若者グループ」は、①構成員の1人以上が町内に住むまたは町出身であること、②高校生以上39歳までの者または女性が構成員の過半数を占めることの2つの要件を満たす団体とします。

◆申込期限 / 5月24日(水)

※審査のうえ、交付を決定します。

☎政策推進課総合戦略推進係 ☎62-2118



◆日時 / 5月から平成30年3月までの毎月第4日曜日、14時～16時

◆会場 / 中央公民館

◆内容 / 介護相談、お茶会、その他毎回軽体操やカラオケなど楽しい企画でお待ちしています。

◆グループホームあじさい ☎(83)4177、または地域包括支援センター(健康福祉課内) ☎(62)2114

「チエリア塾基本コースin村山」 受講者募集のご案内

山形県男女共同参画センターでは、企業や地域で男女共同参画を推進するキーパーソンを育成するとともに、そのネットワーク化を目的としてチエリア塾を開催します。

◆対象者 / 男女共同参画を学びたい、またはその推進にむけて行動したい女性25名(先着)

◆受講料 / 3千円(全5回) ※宿泊研修時の宿泊費、食事は受講者負担(1万円前後)

◆会場 / 遊学館(山形市緑町)

◆託児 / 無料託児あり。要申込・先着順(1歳児～未就学児)

◆申込締切 / 6月3日(土)

☎山形県男女共同参画センター チエリア ☎023(629)7751

在宅医療・介護連携支援室 公開講演会のお知らせ

寒河江市西村山郡在宅医療・介護連携支援室「たんぼぼ」・訪問看護ステーション公開講演会を開催します。ぜひお越しください。

◆講師 / 県立河北病院緩和ケア科長 奥山慎一郎氏

◆演題 / がんになってもあなたらしく生きることを支える

◆日時 / 5月27日(土)14時～

◆会場 / 寒河江市ハートフルセンター

◆対象 / 関心のある方どなたでも

◆参加費 / 無料

☎寒河江市西村山郡在宅医療・介護連携支援室「たんぼぼ」 ☎(84)7107、FAX(84)6103

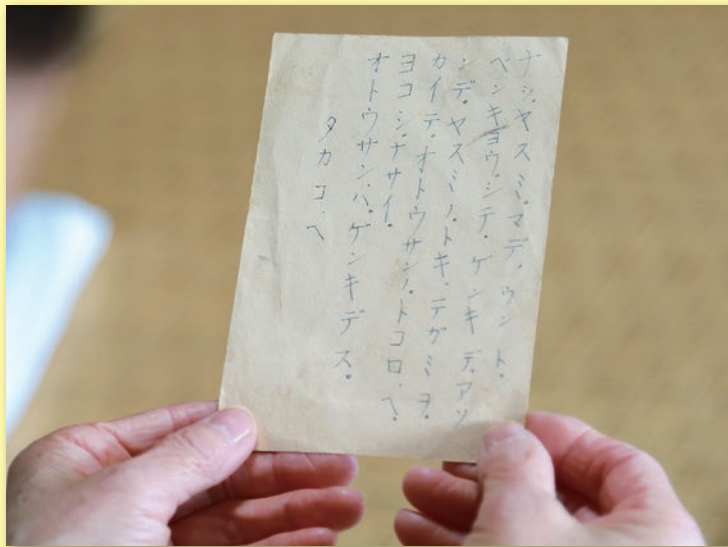
編集 後記

(伊藤智治)

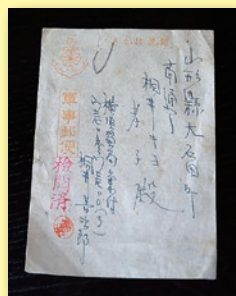
3年間同じ方位にとどまるという神様「大將軍」。その方位に向かって工事などをすると災いが起こるといわれています。大將軍を避ける風習は、現在山形以外ではほとんど見られないとのこと。神様に遠慮する奥ゆかしさも、都会から多くの人が移り住もうとする理由のひとつなのかもしれません。

思い出の No.19 まいぞうひん My蔵品

皆さんの心に残る思い出の品を、それにまつわるエピソードとともにご紹介します。



▲戦地で娘の菅野さんを気づかう父・桐井音次郎さんからののがき。音次郎さんは太平洋戦争開戦後まもなく海軍に召集され、当時小学生だった菅野さんは、大石田町の実家で父の帰りを待ち続ける日々を過ごしました。しかし終戦間近の昭和20年5月3日、音次郎さんは戦地にて帰らぬ人となりました。



◀(左)「軍事郵便」と印字された、のがきの宛名面
(右)「こののがきを読むと、私にも父がいたんだなあと思います」と話す菅野さん

大石田公園の桜を、毎年お母さんと弟と一緒に眺めていました。お父さんは必ず帰ってくると信じての生活でした。お父さんと話したことも、遊んだことも、何も思い出されません。でもこの1枚のがきで、父親がいるんだと勇気づけられました。田と畑があったため、戦時中も食事はお母さんが食べさせてくれたので感謝しております。

私も今では、孫10人曾孫5人のおばあちゃんです。お父さんに一目見せられないのが残念です。たったひとつ夢が実現できるなら、人生を巻き戻して、お父さん、お母さん、弟と4人で手をつないで野道を行きたい……

(8区 菅野 孝)

★皆さんの思い出の詰まった「宝物」はありませんか？
懐かしい写真、長年愛用している道具、旅先で購入した記念の品など、なんでも結構です。
総務課情報システム係☎(62)2187まで、ぜひお知らせください。

戸籍のまど

3月21日～4月20日受付分

お誕生おめでとう

区名	氏名	性別	父母名
美郷	佐竹 航河	男	学・真由美

ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
美郷	佐竹 正美	(81)
富沢	五十嵐藤一郎	(78)
藤田	寿田しげ乃	(94)
月が丘	柏倉ちよ子	(83)
9区	佐藤 隆司	(82)
小見	阿部 正	(70)
小鉾	結城 はる	(90)
富沢	漆畑かつよ	(96)
9区	安彦 勉	(69)
月布	荒木トヨシ	(91)



人口と世帯(前月比)

町の人口	8,515人(-24)
男	4,220人(-5)
女	4,295人(-19)
世帯数	2,943戸(+10)

平成29年5月1日現在

※掲載を希望しない場合は、届け出の際にお申し出ください。